

技を伝え、
思いを伝える

伝統工芸品

「きみがらスリッパ」

かつて馬の産地として知られた十和田市では、馬の飼料用作物「デントコーン」という品種のとうもろこしの栽培が盛んでした。「デントコーン」の皮は、長いのが特徴で白く大きいので、ただ処分するのは、もったいないと考えた農家が、農閑期の冬に皮を使って作ったのが「きみがらスリッパ」づくりの始まりとされています。



程度になり、あまり量はないと組合長の宮本さんは言います。
約2週間乾燥させた皮は、湿り気を与え、柔らかくして編んでいきます。皮の長さや固さ、厚さなど編む部分によって使い分け、皮の状態を選別しながら、一目ずつ手で編み上げていきます。そのため、熟練者でも一日に作れるのは一足ほどで量産はできません。また、片足分を作るだけでも、およそ12本分の皮が必要となるため、現在の作付面積では年間200足ほどしか製作できません。

いろいろな種類



査に合格する必要があります。

次の世代へ伝える

組合では、毎月1回の製作実演を行ったり、予約があれば製作体験も行っています。スリッパ製作を集中して行う12月からは週1回のペースで組合員の勉強会を開いたり、一般の人向けに講習会を開催して一緒に製作してくれる仲間を増やす活動をしています。最近では、地元の高校との共同制作により、紫根染めで色を付けた皮を使ったスリッパを製作しました。



楽しみながら
伝統を守っていききたい

「きみがらスリッパ」には、約70年の歴史があります。今までの組合員たちが、守って伝えてきた知恵や技術といった伝統を若い人たちに何とか残していきたいです。最近では、三本木農業高等学校の生徒さんたちが



十和田きみがらスリッパ生産組合
組合長 宮本 桂子 さん

が収穫の手伝いや体験にも来てくれたり、次の世代の人にも知ってもらえる機会が増えました。その子たちが将来、作り手になってくれば、本当に嬉しいです。

伝統を守るために続けていますが、組合員のみならずワイワイおしゃべりしながら作るのが楽しくて活動を続けています。

伝統を絶やさないようにと、組合員が伝え守ってきた「きみがらスリッパ」は、今では全国的にも評価され、最近では有名ブランドBEAMSでも販売されています。先代の組合員が大事に守ってきた「きみがらスリッパ」という伝統をつなぎ、次の世代へ残していくため、宮本組合長はじめ組合員は、楽しみながら活動を続けています。

- ◆きみがらスリッパ製作体験
とき 毎月第3日曜日
午前10時～午後3時
 - ◆きみがらスリッパ製作実演
とき 毎月第2日曜日
午前10時～午後3時
- ※一週間前までに予約が必要です。

きみがらスリッパの特徴
手触りはさらつとしていて柔らかく、心地よい肌触りで裸足で履いても気持ち良く履くことができます。乾燥させた皮を使用しているため一足120グラム程度と驚くほど軽く、保水性、通気性に優れ、夏は涼しく冬は温かいという特性があります。また、材料の生産からスリッパの製作まで、全て手作業で行われています。

手間を掛けて作る
材料となるデントコーンは、今では馬の飼料としては使用されなくなり、「きみがらスリッパ」のためだけに十和田きみがらスリッパ生産組合の組合員15人が協力して46アールの畑で栽培しています。前年度に栽培したデントコーンから種を取り、種まきから収穫まで組合員が行います。収穫したら皮をむき、品質の良いものだけを選別して乾燥させます。汚れ、染みがある皮は材料として使えないため、1本のデントコーンからは約10枚の皮がとれますが、そのうち使える皮は5、6枚

